

平成30年度事業計画について

I 事業運営基本方針

農業を取り巻いては、農業従事者の高齢化による担い手不足、農産物価格の低迷による農業所得の伸び悩み、輸入農産物の増加による国内生産への圧迫など、引き続き厳しい状況が続いている。

国際情勢も環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）は脱退を表明した米国を除く11か国の協議が合意され、また米国との間では「日米経済対話」が行われるなど、今後の展開次第では農産物輸入量の更なる増大が懸念される予断を許さない状況にある。

こうしたなか、農林水産業の成長産業への動きを促進する観点から、これまでの一律的な減反政策が見直され、平成30年からは需要見通しなどを参考にしながら農業者等が主体的な判断に基づいて米を作れる状況となった。また、主要農作物種子の安定生産と普及に貢献してきた主要農作物種子法においても規制改革の一環として平成30年4月から廃止されることとなり、種子の品質管理が種苗法のなかに包含され、農業をめぐる情勢が大きく変わろうとしている。

このような環境にあって、当センターは農業生産の根幹となる優良種苗を一元的かつ安定的に生産供給するとともに、品質改善を推進することにより市場性を高め、それにより農家経済の安定向上と食料の安定供給に寄与するため、平成30年度から始まる新たな事業運営3カ年計画を策定し、これに基づきながら次のとおり事業を推進する。

なお、本事業の展開にあたっては、県並びに各農業団体と密接な連携を図り、需要を的確に把握するとともに、生産技術や方式の改善に努め、計画的で効率的な生産、供給を行うものとする。

1 需要に応じた種子・種苗の安定生産と不測の事態における迅速な対応

需要を満たす生産量を確保するため、需要予測を的確に行い、必要な種子量を確保するとともに、生産技術の向上を図り安定生産に努める。

特に、期待の岩手県オリジナル品種「金色の風」と「銀河のしずく」については、県の品種配置計画に沿って種子生産に万全を期し、優良種子の供給面から栽培面積の拡大を支える。

また、気象災害により種子が不足する事態に備え一定量の備蓄を行うとともに、不測の事態に際しては他県を含めた関係機関との普段からの情報交換を密にして確保に努める。

2 優良種子・種苗の生産供給

安全安心な農産物の生産に資する優良種子を生産するため、種子・種苗に係る事故対応マニュアルを活用し、種子の生産履歴の確認や品種識別表の適正な貼付や確認等により事故の未然防止に努めながら、優良種子・種苗の安定生産供給を図る。

また、県オリジナル品種の種子・種苗については、試験研究機関との連携により、需要に応じた生産供給に努める。

3 適正な農産物検査の実施

水稲、麦類、豆類の種子生産について、立毛段階や調製作業等においてきめ細かな指導を行うとともに、適正な検査を実施する。

4 適正な法人経営

公益法人における公益目的事業の収支相償や公益目的比率の確保、収益事業における適正な収支などを念頭におきながら、事業継続の安定性が確保される経営を目指す。

そのために、業務の効率化やコスト改善に対する職員の意識を高めるとともに、「役職員行動規範」に則した活動により、社会から一層信頼を得られる組織として、これまでも増して適正な運営ときめ細かなサービスの提供に努めるものとする。

また、中長期的な事業運営の安定性を確保する観点から、公益目的資産取得に係る計画的な資金造成や収益事業における新たな経営資源の開拓を進める。

II 事業計画

A 農産種子事業（公益目的事業）

1 農産種子対策

(1) 農産種子の計画的生産

事前に申し込まれた需要数量を基本に、従来品種から新品種への切り替え需要増減や、麦・大豆の「経営所得安定対策」等の諸情勢を勘案し、関係機関・団体と協議の上、採種ほの品種配置やほ場面積を確定し計画生産を行う。

なお、水稻種子需要が減少していることから、採種生産量を調整しながら採種ほ面積を確保し、指導機関と連携して種子の安定生産に努める。

麦類及び豆類種子については、概ね前年並みの採種ほ場を設置する。

【種子生産計画】

(単位：kg)

品 目	生 産 計 画	前 年 計 画	前年対比(%)
うるち	1,630,900	1,675,600	97
もち	140,000	180,700	77
飼料用米	121,160	109,200	111
水稻 計	1,892,060	1,965,500	96
大 麦	3,000	3,500	86
小 麦	295,500	291,900	101
大 豆	116,250	112,650	103
小 豆	180	180	100
そば・雑穀類	10,390	10,390	100

※ 大豆、小豆、そば・雑穀類は暫定数値である。

※ 生産計画は使用予定備蓄種子を含む。

(2) 種子事故の防止対策

生産ほ場の団地化や麦及び大豆採種ほの輪作を推進するとともに、水稻採種ほの管理状況点検を定期的実施する。

また、イネばか苗病対策については採種ほ周辺の種子消毒剤が昨年とは変わり化学合成農薬による体系が増えるが、引き続き関係機関団体の指導協力を得て、採種ほ場周辺での発生防止や巡回チェック体制の強化に取り組む。

異品種混入防止チェックシートを活用した日常管理やDNA鑑定の実施などによりコンタミ防止チェック体制の充実を図る。

(3) 農産種子供給対策

水稻は主食用米の需要が減少傾向にあり、当初予約注文だけでは種子需要の変動を捉えきれないことから、関係機関団体と連携してきめ細かな情報収集に努め安定供給を行う。

種子更新率が水稻に比べやや低い麦・大豆については、品種の需要動向も踏まえながら種子更新を推進する。

2 品質改善対策

(1) 産米品質改善対策

「食べよう！いわての美味しいお米。」運動と連携しながら、高品質・良食味の「いわて純情米」の安定供給を推進するため、品種配置及び栽培管理の徹底について、関係機関・団体と連携し次の諸対策を取り進める。

① 食味の安定向上等に向けた目標

・ 1等米比率	95	%	以上
・ 整粒歩合	80	%	以上
・ 種子更新率	100	%	
・ 玄米タンパク質含有率	6.8	%	以下

② 安全出穂期を考慮した適品種作付け指導

③ 適期刈取りと適正乾燥調製技術の徹底

④ 技術対策諸会議の開催

⑤ 技術資料等の作成、配布

⑥ 消費地へのPR（「いわて純情米」パンフレットの作成、配付）

(2) 麦類、大豆等品質改善対策

経営所得安定対策の見直しによる国産麦・大豆の生産拡大への対応や実需者ニーズにあった商品性の高い麦・大豆生産に向け、下記の品質改善目標と種子更新目標の達成に取り組む。

① 優良種子の生産、供給

② 適期刈取りと適正乾燥調製技術の徹底

③ 品質改善目標

・ 適正水分	小麦	12.5%	大豆	13%
・ 整粒歩合	小麦	80%	大豆	85%
・ 1等比率	小麦	80%	大豆	50%

④ 種子更新目標

・ 種子更新率	小麦	75%以上	大豆	60%以上
---------	----	-------	----	-------

3 種子需給調整対策

(1) 種子備蓄対策

水稻種子については主力品種を中心に約120ト、天候の影響を受けやすい麦類種子は約30ト、需要変動が出やすい豆類種子は約10トの備蓄を計画し、緊急事態に備える。

4 種子事故防止対策

(1) 採種ほ場病害対策

水稻採種ほ場のイネばか苗病対策として育苗期や本田期における採種ほ場周辺を巡回点検する経費を助成するとともに、細菌病対策についても採種ほ場と連携しながら実施し種子品質の安定化を推進する。

(2) 異品種混入防止対策

育苗から収穫乾燥・調製まで様々な段階での巡回確認・指導を行い異品種混入防止に努め、種子に異品種の混入がないことを確認するためのDNA鑑定も実施する。

B 園芸種苗事業（収益事業1）

1 果樹苗木対策

りんご苗木の生産については、需要の多い県オリジナルりんご品種「紅いわて(岩手7号)」や「ふじ」などの苗木を自前生産するとともに、使用許諾のない品種等は委託生産で対応する。

気象変動や生育に応じた栽培管理を適期に行い、苗木とJM系台木の商品化率の維持・向上を図るとともに、関係機関及び団体と連携して、果樹苗木の改植事業に取り組む各産地の品種動向の収集に努める。

苗木は農家別の個別梱包での出荷を継続し、各農協の仕分け作業の軽減と円滑な納品を進める。

近年、需要が拡大している醸造用ぶどうは、「岩手ワインヒルズ」プロジェクトに取り組む産地などの需要把握と推進に取り組む。

【供給計画】

(単位：本)

種類 / 品種	供給計画	前年計画	前年計画比 (%)	前年実績比 (%)
き お う	1,500	1,100	136	273
さ ん さ	300	600	50	288
つ が る	1,000	1,700	59	119
紅いわて(岩手7号)	2,500	2,500	100	113
ジョナゴールド	1,200	1,400	86	101
大 夢	300	200	150	435
ふ じ	7,100	8,200	87	85
シナノゴールド	1,500	3,600	42	64
は る か	1,500	1,500	100	141
雪 い わ て	400	—	—	137
そ の 他	7,100	6,900	103	130
りんご 苗木 合計	25,000	27,700	90	111
うちわい性台 苗木 計	24,400	27,000	90	109
うち丸葉台 苗木 計	600	700	86	355
りんご 台 木	7,400	8,000	93	142
一般果樹苗木	9,050	11,450	79	121
景観形成緑化花木苗木	50	50	100	143
苗木 総合 計	41,500	47,200	88	118

2 花き種苗対策

(1) りんどう種苗

種子系りんどうは、県オリジナル新品種（候補を含む）の親株を定植するとともに、親株管理を徹底し、採種量の確保と優良種子の安定供給を図る。

また、種子の冷凍備蓄を継続するとともに、備蓄種子を踏まえた採種計画により、採種作業の軽減とすることにより播種作業の軽減と低コスト化を進める。

地域開発品種の栄養系りんどうは、受託生産を継続するが、産地との協議により植栽動向に対応した苗生産体制の充実を図る。

【供給計画】

(単位 種子系：m0、栄養系：本)

品目 / 品種 (商標、系統)	供給計画	前年計画	前年計画比 (%)	前年実績比 (%)
いわて VEB6 号 (いわて夢あおい)	41	60	68	105
キュースト	2	10	20	200
いわて VEB-7 号 (いわて夢ぎんが)	17	20	85	94
マシリィ	20	50	40	80
マジエル	43	70	61	78
いわて EB-1 号 (恋りんどう)	45	70	64	107
いわて EB-2 号	67	100	67	129
早生種 小計	235	380	62	101
いわて	1	15	7	50
いわて MB-2 号	7	30	23	88
中生種 小計	8	45	18	80
ジョバンニ	5	15	33	33
いわて LB-3 号 (いわて夢のぞみ)	30	60	50	77
いわて LB-4 号	17	90	19	155
いわて LB-5 号	50	100	50	69
いわて LB-6 号	22	20	110	100
いわて夢みのり (いわて LB-2 号)	11	80	14	138
晩生種 小計	135	365	37	80
いわて夢みつき (いわて VLB-1 号)	7	20	100	100
アルタ	20	30	23	91
極晩生種 小計	27	50	54	93
いわて乙女	165	160	103	96
鉢物 小計	165	160	103	96
種子系りんどう 合計	570	1,000	57	93
鉢物 ももずきんちゃん	1,700	1,300	131	100
受託品種 小計	56,200	46,000	122	101
栄養系りんどう 合計	57,900	47,300	122	101

(2) イブキジャコウソウ種苗

「多面的機能支払交付金」等利用活動に取り組む組織を中心に促進を図る。

また、国の「食料生産地域再生のための先端技術展開事業（先端プロ）」で得られた定植や長期管理等の省力技術の普及拡大を図り、現地実証区に取り組む営農組織等に技術指導を行う。

【供給計画】

(単位：本)

品目	供給計画	前年計画	前年計画比 (%)	前年実績比 (%)
イブキジャコウソウ	25,000	28,000	89	103
参考) 想定面積 (㎡)	4,000	4,480	89	103

(3) 薬用植物種苗

生薬会社との薬用植物種苗生産委託契約に基づき、安定供給と生産技術の向上に努める。また、品目拡大の可能性を検討する。

【供給計画】

(単位：本)

品目	供給計画	前年計画	前年計画比 (%)	前年実績比 (%)
薬用植物	2,000	—	—	133

3 野菜種苗対策

(1) 栄養繁殖系野菜種苗

いちご種苗については、優良種苗の安定生産に取り組むとともに、出荷前の「炭疽病」の簡易検定を継続して行い、無病苗を供給する。

にんにく及びながいも種苗等については、取り次ぎ供給とする。

【供給計画】

(単位 いちご：株、にんにく：kg、ながいも：kg)

品目 / 品種	供給計画	前年計画	前年計画比 (%)	前年実績比 (%)
北の輝	1,800	1,520	118	160
さちのか	1,600	1,500	107	106
宝交早生	300	100	300	182
その他	4,670	4,540	103	84
いちご苗 合計	8,370	7,660	109	100
にんにく種子	150	100	100	60
ながいも種子	150	30	500	65

(2) 種子繁殖系野菜種苗

需要に応じた供給を行う。

【供給計画】

(単位 カボチャ：本、はるの輝：ml)

品目 / 品種	供給計画	前年計画	前年計画比 (%)	前年実績比 (%)
カボチャ / 南部一郎	300	350	100	80
なばな / はるの輝	2,500	2,500	100	114

C 農産物検査事業（収益事業2）

産地別、品種別にきめ細かに調製作業の指導を行うとともに、適正検査を実施する。

【種子検査計画数量】

（単位：数量 t）

品 目	検査計画数量	検 査 場 所
水 稻	1, 8 9 2	JA 新いわて岩手町種子センター 他 6 ヶ所
麦 類	2 7 5	農事組合法人胡四王みらい 他 1 ヶ所
豆 類	9 4	JA 新いわて軽米ライスセンター 他 1 ヶ所

D 管理運営

（1）健全経営

主要農作物種子法が廃止されるなど農業政策が大きく変わるなか、今後の種子種苗の需要動向を見極めながら、新たに策定した事業運営3カ年計画（平成30年～平成32年）を基本に、農業を取り巻く情勢に柔軟に対応し、業務の効率化やコスト改善に取り組むとともに、職員の意識改革や作業員の就業意欲の向上を図り健全経営に努める。

公益目的事業においては公益性の認識のもと収支相償に配慮しながら経営にあたり、収益事業では事業収入の安定確保と経費の効果的執行により単年度黒字を確保し、新たな経営資源の定着にも力を入れる。

また、特定費用準備資金等取扱規程による建物資産取得資金の積立に対応した収益確保を図る。

（2）適正な管理運営

公益社団法人として、関係法令や諸規程に基づき、各種手続きなど適正な管理運営を行うと共に、事業運営などをホームページなどで適切かつ公正に情報を開示する。

（3）人材育成

事故対応マニュアルに基づき、火災防止や交通安全対策に係る研修会等の開催により、安全な職場環境の維持に努める。

職員の能力開発及び情報処理に関するセミナーの受講、農業機械の操作と整備に関する農業者研修や種苗の安定生産に関する技術研修への参加、職員研修会の開催を行うとともに関係機関・団体が主催する研修会等へ計画的に参加を行う。

また職員の就業意欲と能力の向上を促進し、事業環境の変化に柔軟に対応できる人材を育成するため、引き続き人事評価制度に取り組む。

職員の交代期が近づいており、円滑な業務の以降や後継者育成など計画的に準備を進める。